

## ○ 連携中枢都市圏の意義

今後、人口減少・少子高齢社会化が進行するなか、圏域の中核都市が近隣の市町村と連携して事業に取り組むことで、**圏域全体の活性化**に取り組むもの。

## ○ 連携中枢都市圏に求められている役割

県内全域で人口減少が進行するなか、「連携中枢都市(高知市)」が圏域を牽引する取組と、「連携中枢都市」と市町村が協力し、連携効果により、お互いが共栄できる取組を行うことで、連携中枢都市が**人口のダム機能**を発揮し、**圏域全体の人口減少の抑制**を図る取組が求められています。



## ○ 財政支援（圏域人口728,000人想定） ※H27国勢調査相当

連携中枢都市圏における取組には、国から交付税による財政支援が行われます。

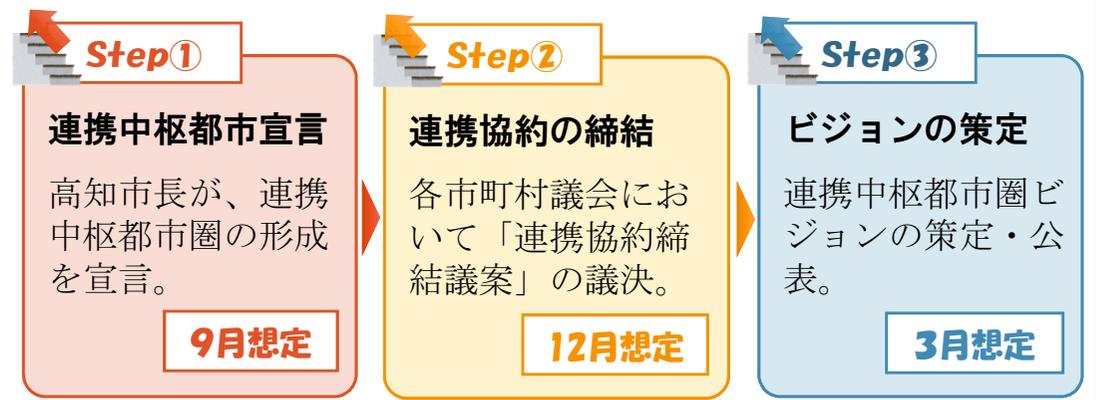
### 連携中枢都市（高知市）

- ア 経済成長
  - イ 都市機能
  - ウ 生活関連
- 普通交付税  
**約1.7億円**  
※圏域人口により増減
- 特別交付税  
**実績額×0.8**

### 市町村

1市町村あたり  
特別交付税  
**上限1,500万円**

## ○ 連携中枢都市圏形成までの流れ



# 連携事業実施による相乗効果のイメージ

- 凡例
- 【ア】経済成長のけん引
  - 【イ】高次の都市機能の集積・強化
  - 【ウ】生活関連機能サービスの向上

